

同窓会は鳥羽小を応援しています

平成21年度 入学式
校舎全景



平成22年度
校舎改築・体育館改修予想図



夢がふくらむ学校作りのために



平成22年3月
第19号
鳥羽小学校同窓会
印刷：(有)平田印刷



新入会員紹介

〔平成21年度卒業生〕





ご挨拶

同窓会長 福谷 洋
(昭和27年度卒)

同窓会々員の皆様にはご壮健で新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は国の内外共に変革の大きな節目となり、我が国では長期政権の自民党から、民主党への政権交代と云う歴史的な国政チェンジが実現し、その方策に期待と戸惑いに一喜一憂の昨今であります。

しかしながら我が故郷鳥羽では、現在舞鶴若狭自動車道の建設が平成二十六年の開通を目指しフル活動で進められ、町の活性化に明るい話題を提供しております。

さて私共同窓会として一番の懸案事項で心配しておりました、老朽化した母校、鳥羽小学校の耐震化に伴う、校舎、体育館の改築、改修が決定され、今年から工事着工の運びとなりました事は、新春早々嬉しい出来事でありませぬ。順調に工事が進めば来年秋には子どもたちは、改築、改修された校舎、体育館で伸び伸びと学べる環境が

整うものと期待しているところで

同窓会々員の皆様、その際には是非改装になった母校へ足を運んでくださる様お願い申し上げます。

ここで貴重な紙面をお借り致し、私事になりますが御礼申し上げます。

三年前、同窓会々長と云う大役を前任の兼松勉氏からお引受けし、至らぬ私が務めさせていただき、無事任期を終えようとしております。在任三年間集落の理事各位、学校長をはじめとする学校関係者各位、同窓会幹事、監事各位、その他多くの皆様には未熟な私にあなたかご支援と、ご協力を賜りました事心から厚く御礼申し上げます。

終わりにになりましたが、歴史ある母校および、同窓会々員各位の益々のご隆盛、ご健勝をご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

平成二十二年一月



ご挨拶

学校長 橋本 須美子

鳥羽小学校同窓会会員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えになったことと思います。日頃より、本校の教育に温かい想いでご支援を賜っております。と、心より感謝申し上げます。

会員の皆様にお知らせする鳥羽小学校最新ニュースは、耐震化による校舎・体育館の改築・改修です。

先日給食感謝祭が開催され、給食に野菜を提供してくださっている地域の方々をご招待したところ、校舎改築のことで話に花が咲きました。そのとき意外に思ったのは、その方々が、改築の内容を良く知っておられたことです。お子さんはとつこの昔に卒業され、お孫さんも本校に来ていない方も、「おらが地域の学校」ともなると大変関心が高いのだと分かりました。

工事の運びは、二月から仮校舎の建設が始まり、三月末には各教

室の引越しを済ませます。その後、旧校舎を取り壊し、本格的な工事に取り掛かるといふ段取りです。

また、二十二年度の入学式を終えると、社会体育でよく利用される体育館も改修に入ります。地域の皆様には、大変ご不便をおかけしますが、九月から新しくなった体育館をお使いいただけると思いますので、楽しみにお待ちください。

さて、私事ですが、教員生活三十八年。とうとう教職にピリオドをうつことになりました。本校には、担任で五年、教頭で四年、校長として三年。三十八年の約三分の一を、この学校で勤めさせていただきました。

そして、この校下に住み続ける私は、地の利・人の利を得て、それを仕事に最大限使わせていただくことができました。多くの人に支えられ職を全うできた私は、幸せ者です。



玉手箱は半開

原田 勇
(昭和28年度卒)

子供の頃、母が御櫃にこびりついた御飯を、丁寧に一粒ずつ指で摘んで口にする姿をよく目にした。

今日のように、殊更「エコ」を強調せずとも、嘗ては「勿体無い」の心一つで、ものを大切に生きるき方を実践していた。

そんな頃を懐古しながら、過去にタイムスリップしてみたい。

二、三自己紹介をしておこう。私の誕生日は昭和16年生まれですから、あのアジア、太平洋戦争開戦間際の年で、「産めよ、増やせよ」の当時であったのか、同級生はA組、B組の二クラスに別れていた。

親にしてみれば、当時の世相を考えてかどうかは存せぬが、とにかく勇ましい人になる願いを込めて「勇」と名付けたらしい。

生まれは三田で、中学を卒業するまでの、やんちゃな時期は三田の皆様にお世話になりました。農

繁期での思い出の一つとして、田植、稲刈り、稲木への稲掛け、稲下ろしなど、農事の手伝いがある。米の収穫期には、何処とも家の中で脱穀をするから、家まで運ばなければならぬ。山ほど積まれた荷車の先引きをするのが子供の仕事。高台にある我が家までには可成の坂が続く。途中で何度か車が停る。親父が気合を入れるが動かない。その気合が誰彼無しに聞こえ手伝ってくれる。そんな時の嬉しさ有難さはよく覚えている。

夏休みは、子供達が集会場にて宿題を主とした勉強会。又、天神講は感慨深いものがある。休日は、宮さんへ行けば必ず遊び相手はいる。棒の端切れをもつての打打発止の真似事。奥山でのターザン接尾。川の水が引けば鳥羽川へ走り魚の掴み取り。等々よく遊んだものだ。

授業中の思い出についても二、三挙げてみたい。怒られるかもしれないが、音楽の時間が楽しみであった。吸うハー吸うハーの笑み満面の愉快な先生に巡り合い、心が和まされたこと。年に一度の展覧会には「金賞」を狙う楽しみもあつたが、柿の生り年には柿を賞品代りに頂き、その数比べも楽しみの一つであつた。情操教育の一環であろう裁縫室畳の間で映画を見ることが出来た。流れる雲に飛び乗り笛を吹く「笛吹童子」のあの確乎不拔の姿が浮かんできてくる。心象の一つとして、若越書道クラブでの思い出は、私にとつて特記すべきに値する。猛烈に練習している友の一人が涙ぐんでいた。訳を聞くと「うまく書けない」、の

一言であつた。確か4〜5年生の頃と思う。

さて「光陰矢の如し」とはうまく言つたもの、「月日の過ぎゆく早さかな」掘り出されたタイムカプセルの中からは、修学旅行の思い出、幼少期の写真を家族と再確認、余韻に浸つたものである。思い出の詰まつた玉手箱はまだ半開きでもいかぬが、原稿が終わりに近づいてくると、いい香りがしてきました。どうやら妻がコーヒーを入れてくれたようです。今年も早や一年を振り返る時がきた。それでは来年も共々勇んで頑張りましょうね。
(大鳥羽在住)



ふるさとつてなんだっけ

高橋 正市
(昭和41年度卒)

「しあわせってなんだっけなんだったっけ」と明石家さんまさんのCMソングが流れています。同年代の人でもあり、難しいテーマでは

なく直に「おいしいもの」が有ることという答えが用意されているのがうれしくつて楽しんで聞いております。この歌の「しあわせ」

を「ふるさと」に置き換えて、答えを簡単に用意したいと・・・頑張ってみます。

「ふるさと」というものを、フオーカスしていきます。小さいときは自分の家を離れることが冒険でした。隣の家に入れていただくだけで、今までにない緊張感を味わい、隣村まで遊びに行つて、まるで異なる家並み、お寺、お宮で遊びほうけて遅く帰る時の不安感・・・中学時代では「大鳥羽駅」に降りたときの安堵感、自転車が入学祝でした。

高校時代の友達が、無悪Ⅱさかなしの地名の元が「宇治拾遺物語」に小野篁広才の事」にある・・・と教えてくれました。調べると「江談抄」にも同じ内容の篁物語が出ています。この友達が若狭高校のI先生です。昔から考古学に情熱がある人でした。無悪のI先生も「さかなし」の歴史を研究された冊子を出されました。これらを参考にさせていただき、以来「無悪」の名前を自己紹介の道具にして来ました。「無線の無、善悪の悪と書いてさかなしと読みます。悪がないということ、そこに生まれた私は善人です。」という調子の

自己紹介を何回してきたことか。中々強い印象になるようで、自分の名前より地名「むあく」を覚えてくれる人もいます。

社会人になって金沢に出ましたが、帰りの敦賀で小浜線に乗るときに安心感。東京に出張すると米原の北陸線で感じる帰着感。東京では、「福井県は、教育水準も体力水準も高く住み心地のいい県」というニュースに感じるふるさと自慢。海外で感じる日本・・・宇宙で感じるであろう地球。

その場その場で「ふるさと」は広がったり縮んだりしますが、自分

●生まれ・育ち・自分を知る人がいて

●私の親も知っていてくれる人がいる土地Ⅱ鳥羽が中心です。

「帰ってきたんけ。元気にしとつてか」声をかけていただけありがたい。私を知ってくれている人がおられるというありがたさは、この鳥羽・無悪にしかないと感じています。

便利な世の中で、いかに離れていてもケイタイで話ができ、webサイト「雪道情報ネットふくい」では、上黒田―田鳥線の道路の映

像が見られ（もう少し左にカメラ振つてもらえると私の家まで見えるのに）ますが、やっぱり帰ってきて会う、話せる人がいてくれるのが一番。私も「おかげさんで」と声を返します。

そんなふるさとも様変わりしています。緑の松が枯れてしまい、梅街道のトンネルが出来て常在院が近くなり（入る順番も近づいた



雑感



小澤 明子

(昭和49年度卒 旧姓 霜中)

東に白く輝く京都タワー、西に莊厳にそびえる東寺五重塔、北には流線形の車体がすべるように走る新幹線が見え、遠く比叡山や愛宕山を望む。少し歩けば京都駅、百貨店、地下街、東西本願寺の威容をながめつつ鴨川に至る。生まれ育った鳥羽谷とは、全く違う環境で今私は暮らしている。

私が小学校時代を送った昭和40

か？)、高速道路が鳥羽谷を横断し「景観」が変わります。加えて私も変わってきました。筋肉が落ち、顔にシワができ・・・ふるさとに負けず様変わりしています。でも生きている限り、ふるさとの変わる様を楽しませていただきます。(船橋市在住)

年代の鳥羽谷での記憶の断片は、娘たちが幼い頃くり返し見ていた「となりのトトロ」の画面とオーパーラップして思い出される。あの夏の日ざし、青空、草いきれ、あの小川、あのお地藏さま、そして水たまりのできるでこぼこ道。あの森のざわめきは、いつも身近にあった。

私の場合、故郷は遠くに在りて

思い出すだけでなく、実はしょっちゅう帰省する。お正月、雪遊び、春休み、お祭り、連休、海水浴、七日盆、お盆、秋の収穫、法事・・・と年中口実を見つけては娘たちを連れて帰郷する。2時間ほどのほどよい距離、自営業手伝いという気楽な身分、そしてたびたび遠出旅行ができるわけでもない我家の懐事情もあって、いざ大鳥羽へと足が向かうわけである。

実家には母と姉夫婦、小浜に住む姉、それぞれ娘たちに年齢の近いいとこが待っていてくれる。山の猿や鹿や猪も見ていることだろう。「あいつらまた来よった。」と噂しているかもしれない。鳥羽谷の風景は少し変わったけれど、そのあたたかさは変わらない。娘たちの心と身体にもそのあたたかさは染みこむようだ。

鳥羽小学校と実家は谷のあちらとこちら。一面の水田と線路しかなかった通路には朝霧地区が生まれ、農道ができ、ずいぶんと変わった。小学校から障害物ひとつなく、私の下校の様子がずっと見えたと母の話も今では昔話だ。「見えとんのに、なかなか帰ってこおへんかったなあ。」と

母は笑う。文字通り道草していたわけだ。ぜいたくな「時」であった。

大学進学を機に鳥羽谷を離れてからもう30年近く過ぎ去ろうとしている。西暦2000年には卒業記念のタイムカプセルを掘り出す事ができた。高橋利男先生や杉谷校長(上中中学校で3年間社会科を教えて頂いた)、当時役員をしていて土管を埋めた張本人である私の父も存命で立ち会ってもらえた。25年の時を経て、とり出された絵や作文は汚れてもなく卒業のまま目の前に現れた。高橋先生直筆の学級目標の大きな紙が出てきたときは、あの6年生の教室が蜃気楼のように浮かんだものである。みなで乾杯しようとしたウイスキーも健在で、話は尽きる事なく同窓会は盛り上がった。その思い出の品々を囲んで定期的に集ろうと決めたものの、その誘いは今だない。大切に蔵に保管して置かれているであろう〇〇氏、お誘い待ってるよ。お世話になります。よろしく。あの時ヨチヨチ歩きだった次女がもう6年生になります。(大鳥羽出身 京都市在住)



「盲導犬との生活」

築山 清美
(昭和54年度卒 旧姓 宇野)

現在、私は42歳。滋賀県東近江市の家に私と主人「雅彦、45歳」と娘「綾香10歳」と盲導犬「ベルチュ6歳」とで暮らしています。そう。私は目が見えなくなっています。盲導犬をもらったのは、3年前です。私は目が見えなくなることを知っていたので、もうすぐ見えなくなるという時に盲導犬を申し込みました。目が見えなくなつて、盲導犬との暮らしは、笑いあり、涙ありの日々です。このベルチュに癒されたり、出かけるのとくさんの人との出会いがあります。盲導犬を連れて、日本中あちこち行っています。

べたり、スーパーに買い物に行つて、日本との違いを見つけたたり、地下鉄に乗つたり、タクシーに乗つたり、マッサージを受けたりしました。親友は中国語、日本語、英語の3ヶ国語が話せて、とても安心して過ごすことができました。

今年の1月には中国の北京に行ってきました。ベルチュも関空まで一緒に行ったのですが、手続が色々必要なことがわかり、今回は預けて、家族3人で行ってきました。北京の親友のマンションに泊めてもらい、北京暮らしを体験してきました。ペキンダックを食

仕事は家で「手当」、手で治療する仕事をしています。家の1階の一部を治療室にして、ゆつたりした曲を流して、リラククスしてもらいながら、その人を診ていきます。今、本をパソコンで書いています。目が見えなくて、どうやって暮らしているのか? どうやって子育てしているのか・・・この本を書き上げて、人々を力づけたいと思っています。講演会に行ったりもします。これは、趣味とも言えるでしょう。小学校に盲導犬と行き、子供たちと一緒に1日過ごして、子供たちに「やさしさ」

今年、私は42歳。滋賀県東近江市の家に私と主人「雅彦、45歳」と娘「綾香10歳」と盲導犬「ベルチュ6歳」とで暮らしています。そう。私は目が見えなくなっています。盲導犬をもらったのは、3年前です。私は目が見えなくなることを知っていたので、もうすぐ見えなくなるという時に盲導犬を申し込みました。目が見えなくなつて、盲導犬との暮らしは、笑いあり、涙ありの日々です。このベルチュに癒されたり、出かけるのとくさんの人との出会いがあります。盲導犬を連れて、日本中あちこち行っています。

今年、私は42歳。滋賀県東近江市の家に私と主人「雅彦、45歳」と娘「綾香10歳」と盲導犬「ベルチュ6歳」とで暮らしています。そう。私は目が見えなくなっています。盲導犬をもらったのは、3年前です。私は目が見えなくなることを知っていたので、もうすぐ見えなくなるという時に盲導犬を申し込みました。目が見えなくなつて、盲導犬との暮らしは、笑いあり、涙ありの日々です。このベルチュに癒されたり、出かけるのとくさんの人との出会いがあります。盲導犬を連れて、日本中あちこち行っています。

を育んでほしいと思つています。子供たちは一生懸命、私をサポートしてくれれます。その姿に私も感動します。この前行った小学校では、子供の質問に「目が見えなくなつて、1番うれしかったことは何ですか？」と聞かれ、思わず「こうして、みんなに会えることです。」と答えていました。

鳥羽小学校と聞くと、とても懐かしく思います。鳥羽小学校は今でも1クラスですが、私たちのときも1クラスで保育所からずっと一緒に人もいました。5年生の時に先生に言われた「清美ちゃんはやればできるのよ」の一言、それからの私は「やればできる」の一言に動かされて、その年のマラソン大会で優勝しました。なわとびや卓球でも優勝しましたが、今でも嬉しく思い出されます。

私は「山内」に住んでいて、私たち同級生は7人いました。そのうち3人が女子でした。その7人で、小学1年生の学校の帰り、鳥羽保育所に寄り道して遊び、次の日に注意されたり、学校へ行く時、お腹が痛くなつ

て、6年生におんぶしてもらつたこともありました。冬は、雪がたくさん積つて、田んぼ道を歩いて行つたことも懐かしいです。私はピアノを習っていたので、よく音楽室でピアノを弾いていました。

今、ボイスレススンとフルートを習っています。昨年は、クリスマスパーティーにゲストで参加して、百人ぐらいの人の前で歌を歌いました。左手には盲導犬、右手には主人がいて気持ちよく歌いました。客席では、その姿に感動し、涙を流した人もいたそうです。

鳥羽小学校の卒業生の皆さん、読んでくださりありがとうございます。これからも、よろしくお願いします。

(東近江市在住)



『トバモン』

宇野 誠 祐

(昭和62年度卒)

私が鳥羽小学校を卒業したのは、昭和62年度のこと。その当時は、鳥羽小学校校舎増築工事と梅街道の造成工事の真つ最中であり、現在のランチルームやグラウンドを造成していた。当然ランチルームで昼食を食べたり、グラウンド横のスキー場らしきものはなかったし、一輪車が鳥羽小学校に登場したのも私が卒業してからだと思う。ただ、あの当時と変わら

ず、鳥羽の人というのは心温かくいい雰囲気を持つていると思う。よく上中の人は『トバモン』というが鳥羽の人というのは、良くも悪くもよその人から見ると変わっているのだろうか。私は『トバモン』という響きはいやではない。むしろそう呼ばれるとホッとするような気がする。

私は現在、若狭消防組合若狭消防署で救急救命士として現場活動を行っているが、今夏に救急講習の講師として母校鳥羽小学校でお

話しする機会を得た。20数年ぶりに校舎内へ足を踏み入れることになったわけであるが、多少古ぼけた校舎で当時の面影が残ったままの小学校であった。講習後に体育館と校舎の一部の改修があると聞き、ついに私が学び育った校舎すべてが改修されることとなったが耐震の関係や老朽化ではしょうがないかと思う・・・

私の小学校の思い出というと釣りだと思う。ほとんど毎日ぐらい釣りしていたように思う。須崎橋(朝霧集落の北側の方)に川の水量を調整するものだろうかゴムのあたかもクジラみたいな物体が川の中にありその上でみんなと釣りをした。みんな最初は竹竿や一本竿だったのが親の釣りに道具を持ち出し、川釣りには見合わないリールや大きい釣針で須崎のヌシ釣りを楽しんだ。ヌシというとなマズであったり、鯉であったりしたが中にはすっぱんなんかもいた

ような気がする。いま考えると竹竿や一本竿の方が釣り自体を楽しめるのだが、当時の子供の思考能力では大物釣りには立派な道具が必要であつたらしい。今と比べて

もう少し生物も多かったような気がするし、生物と戯れる子供も多かったような気がする。川ばかりでなく、カブトムシやクワガタなんかも今よりも大きくわんさかいたように思うが自然の中で遊ぶ方が多かった。ちょうどゲームの流行りもその頃からでどんだん家の中で遊ぶようになっていったのかもしれないが、たまには裏山でシマミズなんかとつてきて釣りなんかしてみるとまた新しいまた懐

かしい発見があつたりするのでろうか。そんな釣竿を持って川へ向かう子供たちが増えるといいなあと思う。

鳥羽小学校の外観や高速道路建設、環境の変化で鳥羽の雰囲気は変わっていくかもしれないが、いつまでも自然と戯れることのできる環境が少しでも残っていくといいと思うし、鳥羽谷に住む人の心はいつまでも変わらずいい雰囲気を出して欲しい。私の子供もこの鳥羽谷で育つて立派な『トバモン』になつてほしいと願う。
(大鳥羽在住)



私達の宝物

田 中 里 穂

(昭和63年度卒 旧姓 三宅)



私は結婚して丸5年になり、奈良県天理市という町で夫と4歳になる息子と3人で暮らしていま

す。奈良県天理市は、私が生まれた麻生野から車で約3時間半のところにあります。今は育児が生活

の中心となつていますが、息子と生活する中で私が育つた田舎での生活をよく思い出します。現在、はつきり言う息子のような幼い子供が五感を思いっきり使つて遊べる空間はほとんどありません。あるといえば、ほとんど整備の行き届いてないただだつ広いというだけの公園がぼつぼつあるだけ。時代の流れもあり、子供だけが集まつて思いっきり遊べる安全な場所を確保するというのはとても難しいようです。

それに比べ、私が幼い頃はとても恵まれていました。私が幼かった頃と言えども20数年前にもありませんが、その頃の遊びといえば、畑仕事をする祖母のそばで土を触つて遊んだり、幼なじみと川や山をよく探検したりもしました。春は田植え、秋には稲刈りを真似事で手伝い、冬は雪遊び、夏は海水浴と、当たり前のようにならと触れ合う機会がたくさんありました。そのような経験の中でさまざまな動植物を発見する楽しさを知り、自然と体力もついていったように思います。母親も自分も、大阪出身の夫にとつて私の実家は「理想的な田舎」だと言つていま

す。年に数回、父母に孫の顔を見せに帰省することがありますが、4歳の息子も麻生野での生活ではとてもいい経験ができるようです。祖父母と雪で遊ぶ、海水浴に行く、畑で野菜を収穫する、突然やつてきた大きな亀を触る、野の花を近くで見たり触つたりする。私が昔当たり前のようになつていたことは、息子にとつてどれも大変珍しい経験です。このような『自然を肌で感じる経験』は、息子だけじゃなくどの子にとつても大切な経験だと強く感じますが、残念ながら街に住む小さな子供にとつて、どれをとつてもなかなか日常的にできることではありません。しかしながら、年に数回だけでもこのような経験ができるということは、やはり恵まれていると思えます。

鳥羽は夫にとつて理想的な田舎ですが、私にとつてもまた息子にとつても、素晴らしい田舎であり私達家族にとつても大切な宝物であると言えます。ここに帰ってくれば豊かな自然が待っていてくれる。普段、忙しい生活に追われる私達の心を癒してくれ、ゆつたりとした気持ちにしてくれる。

毎回、私達はエネルギーを蓄えて
 普段の生活に戻ることができま
 す。毎日通うことはできませんが、
 これから息子が大きくなっても
 ずっとずっと私達家族は、この田
 舎を大切にしたいと心から思いま
 す。鳥羽に生まれたことを感謝す
 るとともに、鳥羽の土地がずっと
 このような豊かな自然に囲まれ続
 けることを願っています。
 (天理市在住)



鳥羽での生活を振り返って

中 島 啓 太

(平成13年度卒)

小学生の頃の思い出といえば、
 作文の宿題が出るたびに、原形が
 無くなるほど文を直されていたこ
 と。同窓会報のお話が来た時、ま
 ずそれを思い出して、自分が任さ
 れて大丈夫なのだろうか、と不安
 に思っていました。参考に昨年の
 会報誌を頂きましたが、大先輩方
 のグツと重く濃い文章ばかりで、
 手本を見て気を楽しめるどころ
 か、プレッシャーに潰されそうに
 なりました。実際に、会報誌に
 載っているのは、昔からこの鳥羽
 地区に住み、慣れ親しんだ方々ば
 りですが、僕は、引越してき
 た身であるため、「恐れ多い注文
 をOKしてしまっただけ」と思っ
 ています。その上僕は、中学を卒業
 してから、三年間だけしか鳥羽地
 区を離れていないので、懐かし
 く感じる事が無く、何を書くか真
 剣に悩みました。ただ、今までを
 ふと振り返ってみると、普段思
 い出さないことが、除々によみが
 えってきて、懐かしさを感じる気持
 ちも少しずつ湧き上がってきました。
 まず、僕は小学二年生の頃、高

浜の和田小学校から鳥羽小学校に
 引越してきました。向こうでは
 二十五人くらいのクラスが二クラ
 スあったのに対し、こちらは十五
 人で一クラスだけであつたこと
 に、とても驚いたことをよく覚え
 ています。高浜との環境の違いに
 最初は戸惑う一方でしたが、学校
 行事や地区の行事に参加すること
 ができました。また、和田から
 引越してきた人が他にもいたた
 め、友人もすぐにできて、いつの
 間にか、新鮮に感じることもな
 くなっていました。

この頃に、少年野球と剣道を習
 い始め、瓜生地区や野木地区と
 いった、他地区の人たちとの交流
 も始めました。僕の人生において、
 この二つのスポーツ団体に加入し
 ていた事は非常に大きいことで、
 監督や先生方から、スポーツを通
 して礼儀を学び、忍耐力と体力を
 鍛えられました。これらは、日常
 生活ではなかなか身につくもの
 はないと思います。七年ほど前
 の話ですが、今でも指導者の方々
 に、深く感謝しています。

小学校を卒業して中学校に上
 がると、剣道や野球を通して知り

合った友人と、同じ校舎で学ぶ事
 になります。入学当時は、他の子
 たちより多く友達がいて、鼻が高
 かったのもよく覚えています。部
 活、文化祭など初めて経験した事
 も多く、一つ一つの行事を目の前
 にするたびに胸を躍らせてしまし
 ました。しかしその傍らで、なかなか
 思うように成績が上がらず、悩ん
 だ時期もありました。小さい頃か
 ら「ものづくり」が好きであるこ
 とと、理数系が得意であることか
 ら、進路を舞鶴高専に決めますが、
 先生に「今の成績では厳しい」と
 言われ、中学生生活最後の五ヶ月は、
 ひたすら勉強でした。

こうして合格した舞鶴高専も、
 まもなく卒業となります。またま
 だ成人したてで、人生経験が浅い
 ですが、就職して、同じように振
 り返るときが来たとき、「充実し
 ていたな」と言えるような、人生
 になるよう努力しようと思いま
 す。
 (朝霧在住)



学校の近況

【学年別児童数】

	男子	女子	計
1年	15	13	28
2年	10	8	18
3年	9	7	16
4年	12	11	23
5年	11	10	21
6年	10	10	20
計	67	59	126

【集落別児童数】

	男子	女子	計
大鳥羽	10	6	16
上黒田	4	3	7
麻生野	4	5	9
海土坂	3	1	4
三生野	3	2	5
無悪	2	7	9
三田	5	4	9
小原	6	6	12
南	3	1	4
山内	10	4	14
持田(有田)	1	2	3
長江	3	6	9
朝霧	13	12	25
計	67	59	126

【平成21年度 教育目標】

児童の幸せと夢の実現のために

めあてをもって、心豊かにたくましく生きる鳥羽っ子の育成

- ・自分で考え、よりよい行動ができる子
- ・自他のいのちを大切にする子
- ・しっかり聞き、はっきり話す子

【主な行事】

4月	入学式・始業式・身体計測・交通安全教室・学校経営総会
5月	春季遠足・内科検診・学力調査・PTA奉仕作業・鳥羽オリンピック
6月	避難訓練・プール清掃・ALT学校訪問・前期校内研究会・プール開き
7月	民生委員と語る会・教育懇談会・終業式
8月	PTA奉仕作業
9月	始業式・自由研究発表会・鳥羽地区体育大会・秋季遠足
10月	町小学校陸上記録会・敬老会・後期校内研究会・修学旅行・校内マラソン・広葉樹植樹
11月	小中学校音楽会・特別懇談会・就学時健康診断・ALT学校訪問・器械運動発表
12月	人権集会・学校経営総会・子育て講演会・終業式
1月	始業式・ALT学校訪問・学校給食週間・鳥羽っ子学習発表会・6年上中中体験入学
2月	スキー教室・新入生体験入学
3月	6年生を送る会・卒業証書授与式・修了式

1年間のあゆみ



4月 入学式



学校経営総会



敬老会



春季遠足



5月 鳥羽リンピック



交通安全教室

鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子



7月 プール学習



5月・8月 奉仕作業



校舎改築・体育館改修説明会



10月 町陸上記録会



11月 町小中学校音楽会



12月 子育て講演会



1月 給食週間



1月 鳥羽っ子学習発表会



2月 スキー教室